



TITLE:

東亞天文協會觀測部月報

AUTHOR(S):

---

CITATION:

東亞天文協會觀測部月報. 天界 1940, 20(234): 419-421

ISSUE DATE:

1940-10-01

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/168070>

RIGHT:

# 観 測 部 月 報

★

東 亞 天 文 協 會

## ★ 流星課だより (108)

課長 小 槇 孝 二 郎

十一月の流星群中、顯著なものは中旬の獅子座流星群であるが、本年は14日に満月が来るので、条件は極めて悪い。本年の極大はグート氏によれば17.5日(萬國時)となる。上旬から中旬には牛座からの流星が期待される。輻射点の主なものは下の通りである。

期 間	輻 射 点	附近の星	性 質
上 旬	$\alpha 60^\circ \delta +34^\circ$	ペルセウス	緩、輝
〃	58 + 9	牛 $\lambda$	緩、輝
〃	43 +22	羊 41	緩、輝
中 旬	150 +22	獅子 $\gamma$	速、痕、顯著
20—23	63 +22	牛 $\eta$	緩、輝
下 旬	155 +39	大熊 $\mu$	速

この外、21日頃一角獣座  $\gamma$  附近から放射する流星が見られるかも知れない。

十二月の流星群中、顯著なものは双子座流星群であるが、今年は極大が満月と全く一致してゐるので、観測条件は十一月の獅子座流星群と同様、甚だ悪い。上旬の大熊座  $\mu$  流星群及び双子座流星群の前驅を特に注意されたい。21—23日頃の小熊座  $\beta$  流星群は、タトル彗星に關聯するもので、本年も充分注意の要がある。主なる輻射点は下の如し。

期 間	輻 射 点	附近の星	性 質
上 旬	$\alpha 156^\circ \delta +37^\circ$	大熊 $\mu$	速
上一中旬	110 +33	双子 $\theta$	速、短、顯著、輻射点移動
上一中旬	119 +29	双子 $\beta$	稍 速
21—23日頃	225 +75	小熊 $\beta$	短

前回報告後到着した観測は下の通りである。

川 人 武 正 氏 (八月份)	谷 口 裕 康 氏 (八月份)
吉 井 耕 一 氏 (七月及八月份)	筆 者 (八月份)

かねて瀬戸内海を中心に観測網を張つた同時観測は主に天氣惡の爲、13日早曉に若干の同一流星を得たにすぎなかつた。ペルセウス群極大時の流星數もまづ平年並のものであつた。下旬の馭者座流星群は天氣惡く観測不能に終つた。

流星課の正規の観測報告中、1937年以後の方は山本會長の手によつてブレティン中に編輯されてゐるので、遠からず發行の運びに到るであらう。(1940—9—3)

## ★ 黃道光課より

瀬戸より、九月4日の對日照と、同 7, 8, 13, 14 兩日早曉の黃道光の觀測報告を本田氏から受領した。又、醍醐氏から同[6, 13, 14 日の觀測を受けた。對日照は非常に明るく、又、形狀が大きいとの由で、直ちに急報 439 號で一般に通報した。銀河の障害もなく、又、大遊星たちの妨げもないので、觀測には好都合であるのだが、月末からは木星が此の觀測を妨害するだらう。

黃道光の方は、相變らず金星が妨害してゐるが、しかし、本田氏の報告によれば、“金星の光りにも屈せず、東天の黃道光が、馭者座の銀河の4倍の明るさです。さすがに、頂點附近は金星が邪魔しますが、銀河に至る光帯も見られます”と、8日の朝に書いてゐる。十月1日には皆既日食もあることであるから、諸員の努力により、特別な觀測が望ましい。(山本)

## ★ 變星課 新たに報告を寄せられた人が多かつた。未だ星數も目測數も

氏 名	星數	目測	月別
三宅 和夫	2	28	3~4
三宅 彰	1	6	"
中野 繁	1	2	8
富田弘一郎	2	5	8
山田 達雄	4	11	7~8
津留 繁雄	2	5	6
岡林 滋樹	18	28	6, 8

少ないが、兎角當課の將來への飛躍が豫期される。秋もやうやく深うなうとして星は諸君を招いてゐる。今後の大成を望みます。今月の報告者左表の通り。

近日本年前半の變星整理をする積りで、すから、報告洩れの方は至急報告下さい。

(岡林)

## ★ 太 陽 課

報告者16名。毎月多數の方々から報告を頂き、かなり盛況であるが、残念ながら觀測日數が10日以下の方々が多く、天候其他止むを得ざる事情はあることと思ふが、連續觀測の性質上、まことに残念である。今後奮勵せられて毎月20日以上以上の觀測を遂行下されるやう御願します。

八月の太陽面は七月に比べて非常な盛況であつた。肉眼に見られる黒點も多く、現れた相對數も、中旬は連日 100 を越へる數字であつた。新群は、沓掛氏は24群認めてゐられるが、概して緯度低く、南北共  $16^\circ$  以上の群は無い。然し全員で比べても、9—10—11の3日間が缺測になつたのは残念である。

今月も例月通り沓掛、津留、正村、阿部氏等より各黒點の緯度報告をいただいた。

## 太陽黑點相對數報告 (1940年8月)

觀測者 (觀測地)	坂上 務 (鹿兒島市山下町)	津留 繁雄 (熊本市本莊町)	本田 實 (瀨戶觀測所)	岡林 滋樹 (倉敷天文臺)	谷口 裕康 (神戸市葺谷區)	金山 明 (尼ヶ崎市昭和通)	前橋榮太郎 (大阪市明星商業)	竹內 潤 (大阪市天王寺區)	樋口 操 (大阪市北區)	木邊 成磨 (滋賀縣中里村)	正村 一忠 (岐阜市溝旗町)	大石 辰次 (靜岡縣吉永村)	香掛 七二 (長野縣青木村)	堀田 泰生 (橫濱市鶴見區)	阿部 正明 (東京市池袋)	富田弘一郎 (東京市世田谷區)	江川 義 (千葉縣柏町)
口徑 mm	42	130	75	75	40	30	25	32	50	75	25	55	102	20	28	40	30
倍率	64	48	60	60	50	26	54	50	50	60	48	64	75	50	45	32	50
方法	投	投	直	投	直	投	直	直	直	直	直	直	直投	直投	投	直	直
1	旅		旅		105	73	69	60	69	85	缺	疊	95	缺	缺	旅	49
2	"		"		105	72	68	疊	90	88	"	69	85	"	旅	47	50
3	"		"		57		疊	43	疊	57	45	49	疊	"	雨缺	疊	雨
4	"		"		缺		57	雨	72	94	雨缺	疊	60	"	81	缺	57
5	"		"		101	76	62	45	85	102		100	缺	"	83	108	87
6	106		"		96		86	65	78	113	93	100	缺	"	96	109	69
7	疊		疊		108		缺	67	缺	94	缺	94	疊	"	96	疊	79
8	旅		"		病		27	雨	"	"	"	"	"	"	疊	雨	疊
9	"		雨		"		雨	"	"	"	"	"	"	"	疊	雨	疊
10	"		"		"		疊	"	"	"	"	"	"	"	"	雨	疊
11	"		旅		"		"	疊	"	"	"	"	"	"	"	雨	疊
12	"		"		"		84	79	101	缺	101	"	"	136	"	106	86
13	"		"		"		36	82	102	140	缺	"	"	152	缺	疊	疊
14	"		"		"		76	忙	病	缺	"	107	疊	"	缺	疊	98
15	疊		"		"	76	缺	缺	"	107	85	113	139	"	93	89	93
16	"		"		"		63	雨	"	101	缺	76	108	"	109	93	77
17	"		"		"	82	62	缺	"	80	152	88	96	138	132	95	92
18	"		"		71		76	"	"	91	128	74	70	124	100	88	84
19	75		疊		68	61	缺	"	"	75	140	60	63	116	112	85	66
20	疊		78		71		72	"	"	74	110	102	81	112	108	疊	63
21	"	107			111		缺	"	126	179	缺	112	158	176	77	98	96
22	121	152			缺	74	119	83	疊	缺	"	118	137	疊	缺	100	76
23	疊	旅			"		缺	疊	99	69	疊	108	130	158	132	89	74
24	雨	疊			疊		75	雨	98	130	疊	108	99	缺	107	74	79
25	"	疊			缺		雨	缺	雨	疊	雨	62	雨	"	缺	76	51
26	49	63			疊		疊	缺	"	雨	"	雨	38	"	48	雨	缺
27	66	73			38	65	44	缺	疊	65	83	70	70	62	雨	雨	51
28	93	96			80		47	"	"	108	66	74	74	缺	53	疊	56
29	疊	疊			"		缺	疊	"	102	缺	77	94	"	"	雨	78
30	"	87			"		60	雨	"	98	"	疊	疊	"	缺	疊	疊
31	雨				"		雨	"	"	"	"	雨	"	"	"	缺	缺
日數	6	1	6		12	8	17	9	17	19	11	19	17	8	11	18	22
平均					94	72	68	61	86	112	79	82	120		93	86	73
前月平均					65	54	40	36	44	76		44	70		75	76	50